

宮城県大崎市 有限会社マルセンファーム

代表取締役：千葉 卓也 氏
作付面積：36.1ha(施設トマト1.6ha、施設キク
1.1ha、施設ハウレンソウ0.4ha、
水稲33.0ha)



<取組概要>

「とことん質を追求する」をモットーに、栽培が難しい高糖度トマトの「デリシャストマト」を柱に施設園芸を展開する2004年に設立された農業法人。従来の家族経営から規模拡大により雇用型経営へ転換し、従業員は20～30歳代が中心と活気に溢れた経営を展開。

施設内には環境制御モニターを設置し、温度、湿度、土壌水分等をリアルタイムに監視して病虫害発生の低減を図り、二酸化炭素の施用により光合成を促進。光合成から得られた糖類を適切に転流させて果実を充実させることで収量が3割向上(7.5t/10a(2014年)→9.9t/10a(2017年))。

非破壊法による光センサーの糖度計を導入して、より糖度が高いトマトを最上位の「極上デリシャス」として販売し、高級トマトジュースの「スカーレットティアーズ」とともに、経営の安定化に貢献。

観賞用キクは、トマト同様の環境制御により仏花を中心とした市場・産直への安定供給を実施。施設ハウレンソウは、夏季を中心とした作型で市場から高評価。水稲は、減農薬減化学肥料を基本とした環境に優しい栽培方法による食味を考慮した栽培を実施。

JGAPの認証を受け、販売のみならず従業員の生産管理体制の高度化を進めるとともに、経営理念やビジョンを研修等を通じて従業員に的確に伝える等、組織体制の改革を実践。